



ふじさわ体協

発行・編集 藤沢市体育協会 〒251-0026 藤沢市鵠沼東8-2 秩父宮記念体育館内
URL <http://www.fujisawa-taikyo.org/>

藤沢市スポーツシンポジウム2024

「きずなくスポーツを通してできること」

10月27日(日)午後2時30分から、藤沢市スポーツ連盟の主催による「スポーツシンポジウム2024」きずなくスポーツを通してできることをテーマに開催。
第1部は廣瀬俊朗さん(株式会社HIRAKU代表取締役/元ラグビー日本代表キャプテン)による基調講演。
第2部は市内の中学生、高校生も参加してのパネルディスカッション。

第1部 基調講演

「きずなく日本代表を通して」

学んだチームづくり



廣瀬さん

5歳からラグビーを始め、高校、大学、実業団でプレーし、2007年に日本代表、2012年から2年間代表のキャプテンを務めた廣瀬さん。どのようにして強いチームをつくり、ワンチームとしてまとめたのか、また、スポーツの普及や健康、多様な人々との場づくりに取り組まれているのか、映像を用いて、親しみやすく語られた。

「ワンチームのために」

ラグビー日本代表は、日本国籍の選手に加え、多くの国籍の選手から構成されている。代表を一つにまとめるには、選手同士の繋がりが大切で、そのためにそれぞれの国の母国語での挨拶をするなど、相手に寄り添うことを大事にした。またその人の生い立ちや国を知ること、パーソナルな繋がりと。試合前に皆でスパイクを磨き雑談することは良い人間関係をつくるのに役立った。

試合でチームが何かを成し遂げるに

は、目標の先にある目的意識をもつこと、選手同士の関係性を築くこと、自分たちで判断することが大事である。試合中、監督は指示をできないので、各ポジションでのリーダーシップグループをつくり、多くの選手の意見を聞き、シェアしていくことが重要。それが結果的に喜びを分かち合い、選手同士の絆を深めることにもなる。

「ラグビーの経験を通してできること」

代表退任後は、2019年に株式会社HIRAKUをつくり、ラグビーでの経験を生かしながら、一人一人が自分らしく生きられる社会を目指している。

部活でラグビーをする高校生が減っているため、ラグビーの面白さを体験するイベントを企画したり、女性アスリートのコンディショニングについて学ぶ活動(12/52プロジェクト)を進めている。

2019年日本でのラグビーW杯開催時には、参加国の選手・観客に各国の国歌・アンセムでもてなす活動で大会を盛り上げることができた。

車いすラグビー、デフラグビー、ブラインドラグビー等の様々なラグビーをワンラグビーとして、スポーツの現場や街なかで体験できるような取組も進めている。子どもたちはその体験から様々な気づきを得られることを期待している。

ケニアとの交流プロジェクトでは、ラグビーをきっかけに、日本で学び働き、ケニアに戻って母国に貢献していくような形にしていきたい。

また、スタジアムフードでは、異なる食文化であっても、皆が楽しめるような日本らしいものを提供したいという思いから、植物性素材のみを使った味噌汁セットの展開もしている。自然とスポーツをつなげ、皆がひらく場を作っていくことが目標である。

第2部 パネルディスカッション

「スポーツを通してできること」

パネリストに種田さん(障がい者スポーツ連絡協議会会長)、濱田さん(山岳・スポーツクライミング協会、鎌倉高校)、青山さん(鵠沼中陸上部)、小田原さん(鵠沼中陸上部)の4名、アドバイザーに廣瀬さん、コメディネーターに宮川さん(フリーアナウンサー)の皆さんで始まった。

■宮川 皆さんから自己紹介を。

■種田 障がい者スポーツに取組むきっかけは、太陽の家体育館に連絡し、その職員の一言から一步を踏み出した。

2018年8月に協議会を設立し、

- i) 加盟団体の情報の共有化。
- ii) 障がい者スポーツカレンダーと機関誌の発行。

iii) イベントや体験会の開催を行っている。
(2面へ続く)



パネルディスカッション

スポーツまつりふじさわ2024

11月10日(日)秋葉台文化体育館、球技場と秩父宮記念体育館でスポーツまつりふじさわ2024が開催されました。秋葉台会場は厚い雲に覆われた少し肌寒い天気の中で各種催し物の準備が進められ、9時30分、スポーツまつりが開始しました。

開始当初は来場者が少なかったが徐々に来場者が増えて体育館内の種目(スポーツクライミング体験、キッズコーナー、ポッチャ、ラダーゲッター、卓球バレー、フライングディスク、トランポリン、シャッフルボード、ストラックアウト、バルーンアート、缶バッジ、スポーツウエルネス吹き矢体験、空手体験、バウンドテニス体験、ソフトバレー体験等々)は、小さな子供を連れた家族連れで賑わい始め、遅れて球技場及び多目的広場の種目(野外ファミリー体験、ラクロス体験、ターゲットバードゴルフ体験、グラウンド・ゴルフ体験、ラグビー体験、陸上体験、野球体験、バスケットボール、モルック、ゲートボール等々)にも多くの家族連れ、子供、若い方のグループ、高齢者が来場し、それぞれの種目を楽しく体験していました。



秋葉台文化体育館内



秩父宮記念体育館内



バスケットボール



ターゲットバードゴルフ



ラグビー体験



キックターゲット



スケートボード



スポーツクライミング

また、今回から新しく導入されたスケートボード体験には小さなお子さんがチャレンジする姿がありました。体育館内では昼時にダブルダッチ世界チャンピオンの華麗なパフォーマンスもあり大変盛り上がりました。

昼時の通り雨で球技場・多目的広場は14時ごろまで来場者が止まりましたが14時以降、又、来場者が増え15時のスポーツまつり終了まで家族連れが続きました。体育館入り口では野菜販売、手芸品販売、キッチンカー等の店が開き賑わいました。

午後からは鈴木恒夫藤沢市長も来場され、グラウンド・ゴルフ体験、ターゲットバードゴルフ体験等で体験プレーをしていただきました。(約830名参加)

秩父宮記念体育館では、肌寒い天気の中でしたが、家族連れで参加される方が、多く見受けられました。体育館の1階ではストラックアウトが行われ、バランス感覚の体験に真剣でした。3階フロアでは、バスケットボールを子どもたちが一生懸命取り組んだり、バルーンアートも楽しみの一つでした。(約340名参加)



バルーンアート(秩父宮記念体育館)

アドバイザーの廣瀬さんは、参加者の質問にも丁寧に答えていただいた。あらためて、スポーツを通して、様々な経験ができること、そして、そのスポーツを行える環境を整えていくことの大切さを学ばせていただいた。(文責 杉淵)

- 「スポーツを通してできること」
- 濱田 秋葉台でのスポーツまつりのクライミング体験がスタートである。部活動には入らず、クラブに入り、コーチに教わった。
- 青山 陸上は中学で始めたが、楽しくて明るそうであったから。走るの楽しい。
- 小田原 仮入部して雰囲気良かった。部活動は楽しい。
- 廣瀬 スポーツは楽しいと体感できることが大事である。
- 宮川 これからの目標は？
- 濱田 クライミング競技を続け、世界で活躍したい。高校受験の時は勉強とクライミングを分けて行つた。夢はオリンピック出場。来年のジャパンカップを頑張りたい。
- 青山 県駅伝で4連覇を目指したい。高校でも続けたい。
- 小田原 県駅伝に出場し、優勝を目指したい。高校では入学してから決めたい。
- 種田 学生時代にバレーボールで怪我をし、あきらめかけたが、ローリングバレーに出会い、さらに卓球、バドミントンなどいろいろなスポーツに取組んでいる。いろいろな方々と出会い、できることを行うことで、元気をもらえる。
- 廣瀬 ラグビーだけでなく、バスケットボールやサッカーもやった。いろいろなスポーツができる環境が大切である。
- 宮川 まわりの人たちの繋がりは？
- 青山 市民マラソンで給水のボランティアを行った。楽しみながら走っている人が多い。
- 小田原 ボランティアで選手をサポートする側になった。選手として感謝する気持ちになった。
- 濱田 市のクライミング大会で講師として参加した経験から、完全に上るために、どのように技術を伝えるか、改めて考えた。クライミングジムがもっとあると良い。
- 種田 スポーツを支援者の人たちと一緒に進むと楽しいつながりが多くなる。
- 廣瀬 スポーツは勇気をもらえたり、発見があったりする。それらをアクションに繋げることが大切である。

(1面4段から引き続き)

第20回 マスターズオープンサーフィン選手権大会

セーリング インターハイ 優勝



藤原選手

日本サーフィン連盟主催の「第20回マスターズオープンサーフィン選手権大会(2024)」が、10月11日から13日まで、鵠沼海岸スケートパーク前で開催された。500名を超える26歳以上の男女のサーファーが、ショートボード、ロング

ボード、ボディボードの男女の各クラス別に競技に参加した。ショートボードは男子5クラス、女子4クラス、ロングボードは男子4クラス、女子3クラス、ボディボードは男子1クラス、女子2クラスであった。

この大会は、オリンピックで正式種目となったショートボードをはじめ、サーフィンを愛好する26歳以上の経験豊富なマスターズ世代が一堂に会し、日本一を決定する重要な大会として位置づけられている。また、全国のサーファーの親睦、情報交換や海への関心を高めるといった目的とともに、大会を通じてサーフィンの正しいルールの励行、マナーの向上により事故防止等の啓発も目的としている。

大会運営は、湘南大会実行委員会がおこなったが、湘南藤沢支部も参画し、競技の安全に務めた。競技では、湘南藤沢支部の選手も活躍し、LWグランドマスタークラス(女子)で中園選手が優勝し、LMカフナクラス(男子)で藤原選手が準優勝した。お二人は、ロングボードの最年長クラスで成績優秀者の2名である。お二人の活躍が、湘南エリアでのサーフィンへの親しみを次世代に繋げることを期待している。



中園選手

(小林)

藤沢市在住の吉岡美帆さん、鎌倉市在住の岡田圭樹さんがパリオリンピックで銀メダルを獲得して両市から市民栄誉賞をもらうなど、盛り上がっているセーリング競技について、藤沢市ヨット協会からさらに朗報です。



市民栄誉賞贈呈式

8月12日から16日に行われたインターハイ<全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会>(和歌山セーリングセンター)で、藤沢市在住の遠藤海之流(みのる)【鎌倉学園高等学校2年】さんが、ILCA6

クラスで日本一に輝きました。

遠藤さんは、小学2年で当協会の藤沢市青少年セーリングクラブに入会して、オブティミスト級でヨットにのりはじめ、中学2年生からは神奈川県ユースヨットクラブに所属し、レーザー4.7クラス(現在のILCA6クラス)に乗りはじめ、高校1年でインターハイ5位、今年は全国1位に輝きました。

藤沢市みらい創造財団が主催し当ヨット協会が協力して、例年江ノ島で開催している『中高生向けヨットスクール』のインストラクターとしても参加してくれています。これからも皆様の応援をよろしくお願いします。(田窪)



遠藤君

カヌーオリンピックのお母さんと共に

第40回 スポーツ人の集い

■日時 2025年2月22日(土) 14時より

■会場 藤沢市民会館

第1部 講演会「スポーツの大切な役割」
東京・パラリンピック競泳金メダリスト
木村敬一氏

第2部 藤沢スポーツ賞表彰式
この1年間に活躍した選手・団体を表彰

編集後記

● 藤沢市の10代の若いアスリートの活躍が目覚ましい。ご紹介できたのは、その一部であるが、みな澁刺としている。スポーツシンポジウムでもスポーツを取り巻く環境の課題や希望を自分の言葉で話されていた。スポーツまつりでは、藤沢の地域スポーツの充実を担われている方々が、事前の準備から当日の運営まで、携わっている。お子さん連れの若い家族へのサポートが、まつりの雰囲気や和やかにしている。(杉瀧)

日本スポーツマンシップ大賞

ヤングジェネレーション賞に輝く

昨年暮れから、今年の正月に行われた第102回全国高校サッカー選手権大会で、県代表として出場した日本大学藤沢高等学校は、初戦で惜しくも準優勝の近江高校にPK戦の末敗退した。その後、元日に起きた能登半島地震の被災地石川県代表の星稜高校の試合が2日に行われることになっていったが、星稜の応援団が地元から来られないことを、サッカー部員が知り、サッカーファミリアの一員として、星稜高校の応援に行くことを決め、試合会場には約50人が集まり、横断幕を作ったり、星稜のチームカラーの黄色のゴミ袋を着用して応援した。その様子は新聞にも取り上げられた。この活動は、能登地震後の被災県出場校を思いやる高校生たちとして、選手や被災地の皆さんに力を与え、多くの感動を与えてくれた。学校の垣根を越えた応援活動として、日大藤沢高校を含む7つの高校が、「日本スポーツマンシップ大賞ヤングジェネレーション大賞」を受賞した。若いスポーツマンの主體的に動き、相手を思う気持ち、清々しい行動であったと思う。(参照：朝日新聞2024年1月18日朝刊、日本スポーツマンシップ協会HP)

第42回 ロートカップ・全国ホープス卓球大会 男子チーム3位入賞

私たち岸田クラブは、湘南台で活動をしている小中学生約50名在籍の卓球クラブです。今年8月に東京オリンピックの会場だった卓球の聖地『東京体育館』で開催された「第42回ロートカップ・全国ホープス卓球大会」において、男子チームが3位入賞することが出来ました。当クラブは6年前の2018年にも同大会で男子チームが3位入賞をしています。その頃に卓球を始めた、今福瀧司、濱田峻、村守結仁、今福權司の4名で先輩達を超える全国優勝を目指して6年間頑張ってきました。残念ながら全国優勝には届きませんでしたが、何度もの接戦をチームワークで切り抜け、負けはしましたが準決勝では優勝チームと互角の戦いをすることが出来ました。

男子チームだけではなく、女子チームも「全国ホープス・東日本ブロック大会」で2連覇を達成と頑張りました。

選手が頑張ったのはもちろんですが、日頃より応援、ご協力いただいている保護者をはじめ、関わってくださる大勢の方々あってのことだと思っています。

クラブのスローガンである“感謝”の気持ちを忘れずに、来年は男女での全国入賞目指して毎日の練習を頑張っていきたいと思います。

(卓球協会)



3位入賞の男子チーム



2連覇の女子チーム

湘南工科大学附属高校男子テニス部 インターハイ男子団体 11年ぶりに優勝

8月2日から4日にかけて、大分県で開かれた「全国高等学校総合体育大会テニス競技男子団体戦」で、湘南工科大学附属高校男子テニス部が、11年ぶりに全国優勝を遂げた。瀬野監督に全国優勝までの道のりや選手への思い、来年度に向けての抱負などを伺った。

優勝までの道のりは? 昨年はベスト16であったが、その時の選手が3人残り、有力な1年生も加わったこともあり、優勝を狙った。今大会は、厳しい戦いであったが、一戦一戦乗り越えていった。一試合ごとに選手も成長していったと思う。県予選では、5人のうち海外遠征した選手もいたが、他の選手が代わって活躍し、県代表となった。こうした選手の成長の支えがあり、私も監督10年目であったので、感慨深いものがある。

選手のまとまりについては? テニスは個人の側面が強いスポーツである。今回の団体戦では、3年生が中心となって、経験を生かし、チームを引っ張っていった。練習は週6日だが、地元のクラブで練習する選手もおり、週2日は全員が集まりチームとしてのまとまりを強くしていった。

キャプテンの安藤選手からの一言 テニスが出来ること、沢山の人のサポートや応援に感謝の気持ちを忘れずに取り組むことをモットーに全員で戦いました。

来年度に向けては? 優勝を目指して、さらに選手の個性とチームワークを発揮できるように指導していきたい。テニスはグローバルなスポーツである。ひとり一人が、力をつけて世界で活躍する選手が出てきてほしい。



男子テニス部チーム

今夏 中学生(陸上競技) 全国大会・関東大会で大活躍!!

○六会中学校男子リレーチームが新人大会で出した記録が県内2位。この頃から全国を意識し、今年度、県大会、関東大会を1位で制し、全国大会へ。全国大会でも予選から1位で他を寄せ付けず、決勝でも見事に1位でゴールテープを切り、優勝の栄冠を手に入れました。決勝は仲間を信じて挑み優勝に辿り着くことができました。

全国大会優勝 六会中学校 男子リレーチーム

○鶴沼中学校女子リレーチームは、県大会を1位、関東大会を1位で全国大会へ。全国大会は鶴沼中学校陸上競技部女子としての悲願でした。全国大会では優勝こそ逃しましたが、4位に入賞。なお、決勝では県中学記録を樹立しました。これまで駅伝では関東・全国に出場することが続いていましたが、短距離の方でも結果を残せたことは、チーム全体として、とても自信となりました。

全国4位入賞 鶴沼中学校 女子リレーチーム

○片瀬中学校男子砲丸投の三浦大翔君は、2年時から頭角を現し、今年度の県大会、そして砲丸投と違う種目で出た関東大会の鬱憤を晴らすかのように、全国大会では力感溢れる投擲で、見事に全国6位入賞を果たしました。高い目標を持ち準備を積み重ねたことが結果に繋がりました。

(陸上競技協会)



全国6位入賞
片瀬中学校 三浦大翔君